

教科(科目)	フードデザイン	単位数	4	学年(コース)	3学年(地域探究コース)
使用教科書	教育図書『フードデザイン cooking&arrangement』				
副教材	教育図書『フードデザイン cooking&arrangement』 ワークノート				

1 科目のねらい

栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得させ、食事を総合的にデザインする能力と態度を育てる。

2 学習計画

時期	授業計画と授業内容	時期	授業計画と授業内容
1 学期	健康と食生活(8時間) 1 食事の意義と役割 2 食をとりまく現状 ①自分の食生活を振り返ろう ②食の外部化・社会化 ③食品はどこから来るのか ④食生活と環境 ⑤これからの食生活 栄養素・食品の特徴(18時間) 1 栄養素のはたらき 2 健康に必要な栄養素 ①炭水化物 ②脂質 ③たんぱく質 ④ビタミン ⑤無機質 ⑥水、その他 3 消化・吸収の仕組み 4 食品の特徴 ①牛乳・乳製品 ②卵 ③魚介類 ④肉類 ⑤豆類 ⑥野菜類 ⑦果物類 ⑧いも類・でんぷん ⑨穀類 ⑩油脂類 ⑪寒天・ゼラチン テーブルコーディネート(6時間) 調理に関するDVD視聴(7時間) 調べ学習・発表(5時間)	2 学期	栄養素・食品の特徴(15時間) 5 食品の加工 ①安全性の向上 ②栄養性の向上 ③おいしさの向上 6 食品の選択と取り扱い ①食品の選択 ②食品の衛生と安全 ③食品の安全精度と情報 調理と献立(18時間) 1 調理の基本 ①調理の目的 ②食べ物のおいしさ ③調理操作 2 ライフステージと食事計画 ①食事摂取基準 ②食事バランスガイド ③ライフステージと栄養 3 献立作成 テーブルコーディネート(13時間) 調理に関するDVD視聴(8時間) 調べ学習・発表(6時間)
			調理と献立(22時間) 4 様式別の献立と調理・食卓作法 ①日本料理 ②西洋料理 ③中国料理 5 食文化を見つめる 6 テーブルコーディネート テーブルコーディネート(10時間) 調べ学習・発表(4時間)

合計140時間(50分授業)

3 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

①関心・意欲・態度	②思考・判断	③技能・表現	④知識・理解
栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関心を持ち積極的に実習に参加している。	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートに関することを食事に生かし総合的にデザインする能力と判断力を持っている。	調理実習を通して食事を総合的に計画し実践できる能力と実践的な態度が身についている。	食事の意義と役割について総合的に理解している。

以上の観点をふまえ 1. 定期考査 2. 調理実習 3. 提出物・課題 4. 授業実習に対する意欲態度などから総合的に判断します。

4 教科から一言

「食」は私たちが生きていくために欠かせないことです。毎日をよりよく健康に過ごすために必要な知識と技術を学びます。

教科(科目)	子どもの発達と保育	単位数	4	学年(コース)	3学年(地域探究コース)
使用教科書	教育図書『子どもの発達と保育 育つ 育てる 育ち合う』				
副教材	教育図書『子どもの発達と保育 育つ 育てる 育ち合う』ワークノート				

1 科目のねらい

乳幼児の発達・特徴、生活、保育などに関する知識及び技術を習得し、子どもの健全な成長を図る能力と態度を育てる。

2 学習計画

時期	授業計画と授業内容	時期	授業計画と授業内容
1 学期	子どもの発達の特性(20時間) 1 生涯発達における乳幼児期の重要性 2 発達と環境 ①発達を支える環境 ②発達と環境 ③多様な環境の中で育つ子ども 3 発達観・児童観とは ①保育にみる発達観と児童観 ②子どもが自ら育つ発達へ ③変わってきた子どもへの関心 実習 折り紙・描画(12時間) 乳児の着替え・検温・抱っこ・授乳のしかた(12時間) 検定 保育技術検定4級・3級	2 学期	④社会的生活習慣の習得 2 子どもの食事 ①栄養と食生活 ②乳児の食事 ③離乳 ④幼児の食事 ⑤幼児の食事の実態と問題点 3 子どもの衣服 ①衣服の役割と条件 ②衣服の選択 ③衣服の調節 ④おむつ ⑤寝かせ方 実習 おむつ替え等(5時間) 布の絵本製作・発表(14時間) プレゼンテーション活動(15時間)
	子どもの発達過程(13時間) 1 身体発育と運動機能の発達 2 乳幼児期のからだの発達 ①乳幼児期の発育の特徴 ②乳幼児期の生理的特徴 3 乳幼児期の発達の特徴 ①乳幼児期の発達 ②乳幼児期の感覚・運動機能の発達 4 人間関係の発達 ①人との絆(愛着関係)の形成 ②自立と対人関係 5 心の発達 ①情緒の発達 ②認知機能の発達 子どもの生活(13時間) 1 子どもの健康と生活 ①大人の役割は ②養護の具体的な方法 ③基本的な生活習慣の習得		3 学期

合計140時間(50分授業)

3 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
①関心・意欲・態度	②思考・判断	③技能・表現	④知識・理解
乳幼児の発達の特徴、生活と保育、健全な成長などに関心を持ち、積極的に授業に参加している。	子どもを産み育てることの意義や親子関係の大切さを認識している。	実践的・体験的な学習を通して、乳幼児の生活と保育について具体的に理解し、実践できる。	乳幼児の発達の特徴、生活と保育、健全な成長に関する知識を持ち理解している。
以上の観点をふまえ1. 定期考査 2. 実習 3. 提出物・課題 4. 授業実習に対する意欲態度などから総合的に判断します。			

4 教科から一言

保育を学ぶことを通して、自分自身の成長の過程をふり返り、人が人として成長することの奥深さや豊かさや思いをはせながら、育てる者としての気持ちを獲得していくことを目的として授業を行います。自分や他者の尊厳を大切にすることを学び、活動的な学習を通して、コミュニケーション能力を育成することを目指します。